

あーばんとーく

平成14年6月号 (通巻 第58号)
発行: こうべまちづくりセンター
〒650-0022
神戸市中央区元町通4丁目2番14号
こうべまちづくり会館内
電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546
URL: <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

こうべまちづくり学校、開校

開校式と基礎講座が開催されました

平成14年5月21日に「こうべまちづくり学校」が、新たに開校されました。

この学校は、安全・安心で、市民が主役のまちづくりを進めるため、よりわかりやすく、総合的に“参画と協働のまちづくり”について学び、考える場として創設されたものです。

◆開校式

基礎講座を始めるにあたり、講義の前に開校式が開催されました。

今回開催された基礎講座には、多くの方の申込がありました。開校式当日も受講生約200名の参加と関係者で、会場の神戸市教育会館のホールが埋まりました。

開校式では、学校長である矢田立郎神戸市長から「住民が主役で地域を重視したまちづくりを進めるにあたり、みなさんがこの学校で学んでいただいたことを活かして、地域のまちづくりのリーダーとなっていただくことを期待します」との挨拶がありました。

学校長の挨拶の後、顧問である神戸大学都市安全研究センターの田中教授からも挨拶がありました。



開校式での学校長と顧問 ↑
会場を埋め尽くした受講生→



◆基礎講座「神戸のまちづくり」

引き続き、基礎講座1回目として、神戸大学工学部安田丑作教授より「神戸のまちづくり」というテーマで、都市計画の仕組みから、現在に至るまでの歴史、



また神戸市における都市計画の取り組み、これからの方向性などを、OHPを使ってわかりやすくお話をされました。参加者の皆さんはメモをとられるなどして、熱心に聞いていました。

最後に安田教授が「これからは、人がまちをつくります。市民のみなさんでこれからの神戸のまちをつかっていきましょう。」としめられ、盛況のうちに終わりました。

基礎講座は、6月中旬まで、計4回開催されます。秋からは専修講座も開催されますので、多くの方のご参加を期待しています。

連載 「コンパクトタウンづくり」活動報告

第3回 まいこせいかつぶんかけん 舞子生活文化圏（神戸市垂水区）

■舞子生活文化圏について

神戸市垂水区の西の端、明石海峡大橋のたもとに広がる3つの小学校区（東舞子・舞子・西舞子小学校）からなる、面積約4.4km²の地域です。大歳山遺跡をはじめとする歴史資源や、豊かな緑、季節ごとの花々、海を見渡せる眺望など、見所がたくさんあります。



■舞子生活文化圏部会の取り組み

まちづくりの実践活動の企画・推進・検討や、区民活動の支援、市政への提言などを行う組織として、平成6年に誕生した「垂水区まちづくり会議」では、垂水区を6つの生活文化圏に分けてそれぞれ活動しています。そのひとつが「舞子生活文化圏部会」です。

舞子生活文化圏では、「健康・歩く」をテーマに、地域住民の皆さんが活動しています。

★まち歩き

平成11、12年度にわたり4回のまち歩きを行い、舞子のまちの様子をチェックしました。まち歩きのと、舞子のまちの見所や、ウォーキングコースの検討など、マップづくりに必要な情報を整理しました。

★マップづくり

まち歩きでまとめた情報をもとにして、気軽に出来るウォーキングを通じた健康づくりを進めるとともに、地域の魅力を再発見することを目的に、マップづくりに取り組みました。

平成13年6月にできあがった「舞子ウォーキングマップ」は、婦人会の協力により舞子地域の全世帯（約2万世帯）に配布されました。



マップの完成を記念し、早速「まちの安全チェック」として、マップを手に再度まち歩きを行いました。まちの課題を整理し、改善に向けた提案も行いました。

★舞子かるたづくり

平成13年度には、大人だけでなく子どもたちにも舞子のまちの魅力をよく知ってもらい、舞子に親しんでもらいたいという思いから、「舞子かるた」の製作

に取り組みました。マップに記した名所を題材に、これまでのまち歩きやマップづくりのメンバー各自が考えた「読み札」の案は全部で300枚以上になりました。読み札選びは、お題（テーマ）との調整が難しく、4回にわたる検討の結果、46枚が選ばれました。また、「取り札」の絵は、地域の小学校の子どもたちに描いてもらった力作です。この「舞子かるた」は市内の書店などでも販売され、ほぼ完売となりました。



また、満開の桜をめでの「かるたとり大会」や、「舞子かるた原画展示」など、かるたを使って、地域の皆さんがまちにもっと関心が持て、魅力を伝えていけるような活動を展開しています。

★今後の活動

これまでのウォーキングマップづくり、かるたづくりで再発見した地域の魅力資源を地域内外の誰もが楽しく、わかりやすく歩けるように、現在、サイン（案内板）の整備について検討しています。サインは子どもたちと一緒に手づくりで製作・設置していく考えで、私有地への案内板設置や特技を持つ人材の募集などで幅広い地域住民への協力・参加を呼びかけていきます。また、今後は河川改修工事の進む山田川を生かした活動やまちの課題解決のための活動など、個別のテーマについてもできることから取り組んでいく予定です。

■舞子生活文化圏部会の川崎聡和さんのおはなし

現在はこうした活動を部会の活動として取り組んでいますが、ゆくゆくは、住民全体のまちづくりに変えていければよいと思っています。何でも他人にしてもらおうのではなく、「自分達のまちは自分達



で守る」ことを基本に、川の掃除や子どもに音頭や太鼓を教えるといったような小さな活動から、気長に積み上げてやっていくべきだと思います。例えば、健康・歴史探訪ウォーキングといったイベントなどにも、お客さん意識で参加するのではなく、参加者の皆さんが、事故の未然防止といった危機管理意識や自らも取り組んでいく自立意識を持って参加してもらえればよいと思います。

（企画調整局総合計画課・垂水区まちづくり推進課）

「新長田・歩いて暮らせるまちづくりシンポジウム」開催

3月23日(土)に、新長田駅周辺地区で住民が主体的に賑わいづくりを行っていく方策を考える「新長田・歩いて暮らせるまちづくりシンポジウム」を、長田区アスタスクエアで、(株)神戸ながたティー・エム・オー、新長田まちづくり(株)、神戸商工会議所西神戸支部、こうべまちづくりセンターが共催で開催しました。

当日は、地域住民を中心に約150人が集まり、京都府立大学人間環境学部の宗田好史助教授の基調講演に続き、事例発表として、(株)バルニバービ社長の佐藤裕久氏から大阪南船場の事例、京都西陣町家倶楽部の小針剛氏から京都西陣の事例、またアスタきらめき会代表の伊東正和氏から地元新長田の事例の発表がありました。その後、細田・神楽まちづくり協議会長の野村勝氏、長田連合婦人会長の荒本春枝氏を加えパネルディスカッションを行いました。

その概要をご紹介します。

①基調講演(宗田氏)

- ・新長田は、製造業、商業、住宅が密接な関係にある。今後は製造業に代わる新しい商業とサービス業が必要である。
- ・商売やケミカル産業での苦勞、震災の経験や思い出こそが長田の個性であり、心休まる身の丈サイズの暮らしに合った温かいまちは、新しく商売を始めようとする若い人や、日本で暮らし始める外国人には非常に魅力である。

②事例発表(佐藤氏)

- ・「懐の深いまち」というイメージを持っていた南船場で、お洒落な店や面白い店を始めた人たちに刺激され、いろいろな人の力を借りてレストランを始めた。7年前は寂れたまちだったが、そういう人間関係がベースになって今の賑わいに繋がっている。
- ・新長田もお金の論理に巻き込まれず、いいもの、楽しいもの、心豊かなもの、幸せなものをつくり続けられるまちになって欲しい。
- ・もしも新長田に何かを感じ、何かをやってみたいという若い子達がいたら、力を貸してやってほしい。

③事例発表(小針氏)

- ・西陣の町家を借りるため2カ月半まちを歩き、家主

に理解してもらえ、住むことができた。どうすれば住めるのかという問合せが多く、今では町家倶楽部として、町家とそこに住みたい人のコーディネートをしている。自分の夢のために頑張ると、結果としてまちが変わってきた。

- ・「来てほしい」ではなく「西陣はおもしろいよ」と言ったら、エチケット、マナーが深い人たちが来てくれた。
- ・時間はかかっても、住んでいる人と訪れる人とのコミュニケーションが上手くとれているまちが魅力的である。

④事例発表(伊東氏)

- ・震災時、隣近所の助け合いが支えとなった。下町であるがゆえのコミュニケーション、人と人とのつながりを残したい。
- ・お客さんの立場を考えてショップモビリティや買い物

もん楽ちんバスなどを始めたところ、利用者どうしにコミュニティーができてきた。イベントも、自ら参加して楽しむことが大切である。

- ・住民と行政、商売人の3者が、同じ力でまちを育てていくことが重要だと思う。最近は大きな仲間の輪が広がってきており、外にない魅力を活かしながら、まちづくりを続けたい。

⑤パネラー発表(荒本氏、野村氏)

- ・長田区連合婦人会では、花を植えたり、学校と協力したまちのクリーン作戦等を行っている。商店街とも協力して、道にはみ出した商品などを整理してもらっている。まちがきれいになり、様々な人々と関係ができると、まちもどんどんよくなる。
- ・個性あるまちづくりと言ったとき、消費者の立場からは、食べ物が安く、人が優しいということが大切である。
- ・新長田駅北地区は基盤整備が遅れていたため、震災で8割の建物がつぶれた。区画整理により元の住民が一日も早く戻ってくること、まちのにぎわいを取り戻すことを目標にしている。
- ・ケミカルシューズ産業は厳しい状況にあるが、人材育成や独自の販売ルートづくりなどに力を入れている。



⑥ディスカッション

(まちづくり活動について)

- ・花を植え、育てるといった活動が、まちに対する真心を人々に伝えていく。
- ・いい長田、いいまちをつくれれば人が帰ってくる。人が帰れば当然のことながら商売も始まり、人の賑わいもできると思う。
- ・まちというのは絶えず動いているものであり、誰でもがすぐに入れて、いつも何かを発信しているところである。

(新長田の魅力・個性について)

- ・都市の持つ最大のポイントは、いろいろな人が出会い、そこから何かが生まれることである
- ・民間や行政に頼むより、自分でまちの個性に気付いたり、個性を見つけてくれる人が来たときに、初めてまちが光ってくる。まちの魅力は、自分たちで感じている以外にもたくさんある。
- ・地震時には物が無くなった以上に、いい仲間と出会えて、まちづくりに対する夢を持っていたということが重要だった。
- ・苦勞をしたから温かいというのが、長田の個性である。様々な産業を育ててきた歴史が、地域の自信につながる。



(若者を引きつけるための条件)

- ・マクドナルドやユニクロがあれば若者が来るという発想では、若い人は来ない。
- ・「若い子たち」という普通名詞でなく、「〇〇くん」という固有名詞で、身近なことについて、知り合いの若い人とコミュニケーションを取ってみることから始めてみる。我々も若者たちの背中を押してあげないといけない。

他都市での興味深い取り組み事例などから、新長田の個性を活かしたにぎわいづくり「コンパクトタウン」を考える機会となりました。

(こうべまちづくりセンター)

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館ギャラリー企画展
第2回兵庫県書作家協会

正筆会による「女性がうたう和歌展」

会期 6月20日(木)～25日(火)

午前10時～午後6時(最終日は、午後4時まで)

主催：こうべまちづくりセンター・兵庫県書作家協会・正筆会

後援：神戸市・神戸市教育委員会・神戸新聞社

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

6月1日(土)～30日(日)	土砂災害の防止啓発	国土交通省六甲砂防工事事務所
----------------	-----------	----------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
6月 6日(木)～11日(火)	第18回日韓親善写真文化交流展	日韓自然写真家協会
6月13日(木)～18日(火)	第3回ぶどうの会作品展(油彩水彩)	ぶどうの会
6月20日(木)～25日(火)	第2回兵庫県書作家協会 正筆会による「女性がうたう和歌展」	こうべまちづくり会館 ギャラリー企画展
6月27日(木)～7月2日(火)	三滴会こうべ書道展	三滴会